

創意工業

高付加価値部品のトップブランドを目指して

年頭の挨拶

2024年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。まず、元日に発生しました能登半島地震により亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された多くの皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、年始ということで干支にまつわる話をさせていただきます。今年の干支は「甲辰」です。「甲」は、十干の最初にあたるもので、生命や物事の始まりを意味するとされており、「辰」は、昇り龍のように勢いよく活気に満ちた年で、成長と進展が期待されます。このことから、今年は変化の激しい年になると言われております。当社の業況に置き換えて考えると、新たな事業が芽吹き大きな変化に繋がれば良いと思っております。

事業環境について

昨年の年始と比較すると当社主力3部門の事業環境は不透明感が強く、明るい状況とは言えません。

軸受に関しては、不二越様の設備投資が鈍化しており当社への発注量にも影響



代表取締役
清水 克洋

が出ています。一方で、昨年中にタイとメキシコの現地工場を訪問した際、海外工場で使用する消耗品について、海外工場から直接当社に発注いただけるようご提案させていただきました。昨年末より試行錯誤しており、お客様の利便性向上につながるこの取り組みを活発化させたいと思っております。

半導体に関しては、お客様や業界内からの様々な情報が錯綜しておりますが、先の見通しは良くないと捉えております。2023年春頃がボトムで、現状は当時に比べ、2倍程度の受注を頂戴しています。2022年のピーク時と比較すると7割程度となっております。しばらくこの状況が続くのではないかと予測しています。

工作機械に関しては、約1年前から受注が右肩下がりとなっております。各工作機械メーカーの受注残も当然減少しており、生産台数についても減産されています。一方で、年始よりお客様訪問させていただく中では、日本工作機械工業会の受注予測同様、現在がボトムで今春あたりから徐々に回復し、昨年同等の水準になるとも言われております。

その他、航空機に関しては、ボーイング737MAXで発生した事故の影響がどのように左右するかわかりませんが、787の増産計画、777Xの生産開始など明るい話題も出ており、当社にも良い影響を期待しています。

2024年の 経営戦略について

営業面では、主力3事業の業況見通しが芳しくないことを踏まえ、新規品の獲得を強化していきたいと思っております。新規品

と言っても、新規のお客様からの受注獲得だけでなく、既存のお客様との取引においてこれまでに受注したことのない製品の受注にも注力していきます。様々なお客様にコンタクトし、当社がお力添えできる製品が無いか営業課員を中心に尽力していきます。

製造面では、昨年9月より生産本部体制を敷いています。昨年までに製造部において様々な改革が進んだため、その改革の範囲を広げることが狙いです。重点課題としては、生産統括部の役割強化です。製造部と営業課の橋渡し役として双方の事情を理解した上で円滑な受注と生産につなげる機能を担っています。業務範囲が限定的であり、本来期待している役割に対して一丸となり取り組める状況には至っていません。生産統括部内で属人化されている業務の標準化を図りつつ、製造部を含めた生産本部とすることで営業課との連携を強化し、安定的に製販一体となったものづくりができる体制を目指していきます。

そして、今年成長支援制度元年と定めます。現在、部課長の皆様と4月からの運用を目指し、社員の皆様の成長、能力開発につながる制度を策定しています。具体的には、各自の成長に関する目標を設定し、日々の個別面談と定期面談を通じて目標達成までの計画をサポートする仕組みです。ここで立案する個人目標は当社の経営理念や行動指針にも関連する内容を設定し、会社全体として目指すべき目標や理念、行動指針の浸透も期待しています。

最後に、様々な変化にも対応し良い1年になるよう石金精機全社一丸となり精進していきます。本年もよろしくお願いたします。

新 年 の 抱 負



営業課
松井さん

昨年を振り返って

昨年、勤続15年を迎えました。“石金”の上にも3年の5倍の年月が経ちました。この1年を振り返ると、前半は非常に好調で案件が続々と舞い込み、売上も付いてくるという状況でした。一方、夏以降は徐々に落ち込み、その落ち込みを挽回すべく、主要顧客以外の、その他に分類される細かな客先へ向けた種まきに注力することとなりました。

2024年の抱負

今年で還暦を迎え、十干十二支も2巡目に入ります。これまでのような勢いに任せるのではなく、お客様に信頼してもらえ、落ち着いた営業スタイルに変えていく同じ過ちを繰り返さないことを抱負とします。

また、プライベートでは30年来の趣味であるサウナの47都道府県制覇に向けて、残る島根県と鳥取県にチャレンジしたいと思っています。



技術課
小林BL

昨年を振り返って

昨年は1月のサントリーフラワーズ様への納品という大仕事から始まり、6・10・11月の展示会出展に合わせた、次世代型分解焼却廃棄物処理機 ZERRO emi 01の開発、そして本業である設計・製作業務も相まって慌ただしい1年でした。その甲斐あって、苗ポット植え装置はリピートの期待大 ZERRO emi 01は大反響という成果が出ています。

2024年の抱負

石金精機の装置はカーボンニュートラルやSDGsという需要にも応えられるという点を更にPRしていくと同時に、新規開拓として県外進出にも取り組んでいきます。また、技術課としての設計・制作にも昨年以上に尽力していきます。

プライベートでは、雪が溶けてから、長らくご無沙汰となっているバイクでのツーリングに行ければと考えています。



製造3課
石橋さん

昨年を振り返って

2022年11月に入社し、昨年は仕事に慣れることに一生懸命となった1年でした。2か月ほどお休みをいただいたこともあり、ようやく石金精機で働き始めて1年が経ちました。今では仕事にも慣れ始めてきたと感じています。

2024年の抱負

仕事に慣れてきたと言っても、まだまだ皆さんと比べると速度・正確性ともに及びません。今年はずっと正確に丁寧な仕事をより早く出来るようになること、慣れてきたことで生じるポカミス無くすることが目標です。

プライベート面では、昨年からはじめた筋トレの継続が目標です。最初は慣れない立ち仕事で午後になると足が辛くなることや、製品を片手で持つて洗浄する際に苦勞することがありましたが、スクワットや趣味のボルダリングの効果もあり、問題なく働けるようになりましたが、これからも続けていきたいと思っています。



ベトナムBK
トウエンさん

昨年を振り返って

石金精機で働き始めて6年が経ちました。今は自分が担当するプログラム作製、加工といった仕事の他にベトナムBKの管理業務も行っていきます。

ベトナムでも日本でも、管理することが一番大変な仕事だと思っていますが、ベトナムBKのメンバー全員で一生懸命仕事に取り組めるように頑張りました。

2024年の抱負

今よりもレベルアップすることで、仕事の質を高めていきたいと思っています。また、これからも家族がいる日本で働いていきたいと考えています。

ベトナムとのルールや文化の違い、日本の寒い冬やベトナムでは降らない雪を大変に感じることもあります。そのような時は大好物のフォーを作ってもらったり、ゲームをしたり、家族との時間を過ごしてリフレッシュすることで、仕事に取り組む元氣を取り戻していきます。

新設備の紹介 立型CNC旋盤 MEGA TURN600

新設備の導入で
更なる高速・高精度加工の実現！

昨年11月、当社第1工場に新たに立型CNC旋盤 MEGA TURN600を導入しました。
本設備は当社部品事業における半導体製造装置部品の新たな引き合いに対する対応力強化を目的として導入しました。

MEGA TURN600は機械構造的にコンパクトなのに大きな加工エリアが確保されています。同型クラスで最速の主軸回転数と早送り精度を誇り、高精度な加工軸位置決めも可能です。更には、熱変位制御機能により、安定して継続的に高精度を維持するので、試運転では、高速で高精度な加工を実現できました。

また、従来は立型CNC旋盤1台のみだったため加工待ち案件も発生していましたが、立型CNC旋盤2台体制となったことで、納期対応力が大きく向上しました。

今のところ、半導体装置部品の製作を中心に稼働する予定ですが、今後は設備の特性を活かした難削材、ステンレスやハステロイなどの薄くて円盤状の部品を主力に稼働させたいと考えています。



立形CNC旋盤 MEGA TURN600

完成した試作品



試作時の様子



最大加工径：630mm
最大加工長さ：550mm
主軸最大回転速度：2200min⁻¹
クラス最速の早送り速度：
X軸、Z軸 30m/min
高速・高出力・高剛性ビルトイン
モータ主軸を搭載し、重量ワーク
にも対応します。

地域企業協働プログラム 進捗報告

IPADプロジェクトより社内でのDXに取り組む、営業課 竹原課長に
地域企業協働プログラムについて伺いました。

地域企業協働プログラムの概要

地域ハブ団体である㈱ジェック経営コンサルタント殿より紹介いただき
経済産業省による地域企業・産業でのDXとデジタル人材の育成推進の一
環として、地域企業協働プログラムに参加しました。メンバーはチーム一
石三鳥殿、ジェック殿、当社で構成されています。チーム一石三鳥殿メン
バーは、チームリーダーれりり様、サブリーダーたい様、さのつち様、サ
ンサン様、yoshihima様、みつお.com様の6名です。実に様
々な経歴と業務経験を有される、非常にポジティブな方々です。当社から
は金尾本部長、臼澤部長、当方です。
ミーティングはオンラインで開催され、本プログラムを実施する約2カ
月間、毎週水曜日に開催されています。加えて、チーム一石三鳥殿では週
末にもご活動されています。

取り組み内容

本プログラムの主たる目的は、従来取り組んでいたDX化による納期対
応力強化の取り組みであるIPADプロジェクトを、従来の部門毎から会
社全体へステップアップさせる構想とめです。キックオフミーティング
にて目的の確認と共有をした上、まず課題を大きく7つに整理しました。
その後、各々に対する方針を決定し、さらに詳細な課題の確認と整理を行
いました。その結果、会社全体で3課題、各部署における課題が合わせて
12課題と、合計15課題の抽出と昇華に取り組むことが出来ました。

この段階では、多くの課題は現状アナログデータの取り扱いのデジタル
化（デジタルイゼーション）や、業務プロセスをデジタル化（デジタルイゼ
ーション）することで改善や解決できることが分かりやすく見せる化され
ました。次に当社から検討用のサンプルデータの提供を経て、プロジェク
ト期間等を考慮し、5課題に集約と集中を図りました。現在は2月上旬に
行う、最終とりまとめに向けて、追い込み中です。
成果物は目的に対する、分かりやすい資料提案とサンプルツールの提供
が見込まれます。

DXの今後

地域企業協働プログラム終了後はIPADプロジェクト（社内版）再開に
あたって、まず3つの全体課題を経営トップを含めてプロジェクトメンバ
ーに共有します。その上で、現在当社を取りまく事業環境の変化に対応し
た、DXにより実現したい経営ビジョン・ビジネスモデルを明確化し、具
体的施策の取り組みにより、会社も社員も成長につながる活動へとつなげ
ます。

シゴトの“こだわり”



日本で働き始めた時は覚えることもたくさんあり、大変でしたがこの6年間、仕事のことから日々の暮らしの様々なこと、日本の文化などを教えてもらえたので、今では日本で働くことに慣れることが出来ました。

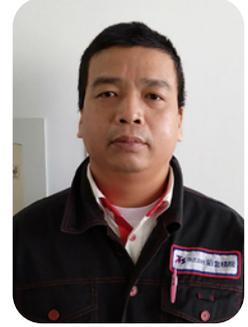
毎朝、仕事に取り掛かる前にベトナムのお茶を飲んでリラクゼーションしてから仕事を始めています。休日には音楽を聴いたり、ギターを弾くこともあります。ベトナムでは友人とコーヒーを飲みながら過ごしたり、毎週土曜日の朝にサッカーをしていましたが、今は子どもと一緒にサッカーをすること、家族で過ごすことでリフレッシュしています。

リフレッシュのために欠かせないこと

ベトナムでは、日本の大企業の工場で今と同じく製造の仕事をしていました。石金精機での働き方との大きな違いは、担当する仕事の幅広さです。ベトナムではプログラム製作担当、治具製作担当、検査担当とそれぞれの工程に担当者がいるため自分が担当する加工工程の作業だけに集中して取り組んでいました。今は加工だけでなく、関連する工程も全て自分で行うので、技術を身に付けることが出来ますし、毎日考えながら仕事をしています。

その他の違いは紙の使用頻度です。これまではほとんど紙を使うことなく働いていたので、紙の資料を多く使う仕事の仕方に慣れるまで大変でした。

石金精機で働く中での学び



ベトナムBK
Hieu (ヒュウ)さん

ベトナムと日本の働き方の違い

【次号のバトン】

次号では製造3課の小林さんを推薦します。ベトナムから日本に来た時に仕事や生活のことなど、様々なことを教えてくれた先生です。

石金ニュース!



Happy Wedding

2023年11月18日、ベトナムBK
ドゥックさんがご結婚されました。



ベトナムBK
ドゥックさん

2022年、ベトナムに帰国した際に出合ったことをきっかけに交際が始まりました。2人共にフォンソン県出身で家が近く、出合った時にはとてもきれいで優しい人だと感じました。

現在、日本とベトナムと遠く離れたところで暮らしていることを寂しく感じることも多いのですが、毎日電話をしてコミュニケーションをとっています。

妻のためにも、これまで以上に頑張って仕事に取り組んでいきたいと思っています。



結婚式の風景



ドゥックさんご夫婦のウェディングフォト

ベトナムの結婚式は3日間開催され、参列者は1000人を超えることもあるそうです。ドゥックさん達の結婚式には約300人の方が参列されました。